

安全管理規程

帝都自動車交通株式会社

(目的)

第1条 この規程(以下「本規程」という。)は、道路運送法第22条の2の規定に基づき、輸送の安全を確保するために遵守すべき事項を定め、もって輸送の安全性の向上を図ることを目的とする。

(適用範囲)

第2条 本規程は、当社の一般乗用旅客自動車運送事業に係る業務活動に適用する。

(輸送の安全に関する基本的な方針)

第3条 社長は、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、社内において輸送の安全の確保に主導的な役割を果たす。

また、現場における安全に関する声に真摯に耳を傾けるなど現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底させる。

- 2 輸送の安全に関する計画の策定(Plan)、実行(Do)、チェック(Check)、改善(Act)を確実に実施し、安全対策を不断に見直すことにより、全社員が一丸となって業務を遂行することにより、絶えず輸送の安全性の向上に努める。
また、輸送の安全に関する情報については、積極的に公表する。

(輸送の安全に関する重点施策)

第4条 前条の輸送の安全に関する方針に基づき、次に掲げる事項を実施する。

- 一 輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底し、関係法令及び安全管理規程に定められた事項を遵守すること。
- 二 輸送の安全に関する費用支出及び投資を積極的かつ効率的に行うよう努めること。
- 三 輸送の安全に関するチェックを行い、必要な是正措置又は予防措置を講じること。
- 四 輸送の安全に関する情報の連絡体制を確立し、社内において必要な情報を伝達、共有すること。
- 五 輸送の安全に関する教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、これを的確に実施すること。

- 2 関連会社とも協力し、一丸となって輸送の安全性の向上に努める。

(輸送の安全に関する目標)

第 5 条 前条に掲げる方針に基づき、当社の前年事故発生総件数に対する削減目標を策定する。この削減目標は、必要に応じて見直し、継続的な改善を行う。

(輸送の安全に関する計画)

第 6 条 前条に掲げる目標を達成し、輸送の安全に関する重点施策に応じて、輸送の安全を確保するために必要な運転者の指導監督の見直し計画を作成する。

(社長等の責務)

第 7 条 社長は、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を有する。

- 2 社長は、輸送の安全の確保に関し、予算の確保、体制の構築等必要な措置を講じる。
- 3 社長は、輸送の安全を確保するための業務の実施及び管理の状況が適切かどうかを常に確認し、必要な改善を行う。

(社内組織)

第 8 条 社長は、次に掲げる者を選任し、輸送の安全の確保について責任ある体制を構築し、輸送の安全を確保するための企業統治を適確に行う。

- 一 安全統括管理者
- 二 指導主任者
- 三 統括運行管理者
- 四 運行管理者
- 五 運行管理補助者
- 六 整備管理者
- 七 整備管理補助者

- 2 指導主任者は、安全統括管理者の命を受け、輸送の安全の確保に関し、各営業所長を統括し、指導監督を行う。
- 3 営業所長は、指導主任者の命を受け、輸送の安全の確保に関し、営業所を統括し、指導監督を行う。
- 4 輸送の安全に関する組織体制及び指揮命令系統については、安全統括管理者が病気等を理由に本社に不在である場合や重大な事故、災害等に対応する場合も含

め、別に定める組織図による。

(安全統括管理者の選任及び解任)

第9条 社長は、取締役のうち、旅客自動車運送事業運輸規則(以下「運輸規則」という)第47条の5に規定する要件を満たす者の中から安全統括管理者を選任する。

2 安全統括管理者が次の各号のいずれかに該当することになったときは、当該管理者を解任する。

- 一 国土交通大臣の解任命令が出されたとき。
- 二 身体の障害その他やむを得ない事由により職務を引き続き行うことが困難になったとき。
- 三 関係法令等の違反又は輸送の安全確保の状況に関する確認を怠る等により、安全統括管理者がその職務を引き続き行うことが輸送の安全確保に支障を及ぼす恐れがあると認められるとき。

(安全統括管理者の責務)

第10条 安全統括管理者は、次に掲げる責務を有する。

- 一 全社員に対し、関係法令の遵守と輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底すること。
- 二 輸送の安全の確保に関し、その実績及び管理の体制を確立、維持すること。
- 三 輸送の安全に関する方針、重点施策、目標及び計画を誠実に実施すること。
- 四 輸送の安全に関する報告体制を構築し、社員に対し周知をはかること。
- 五 輸送の安全の確保の状況について、定期的に、かつ、必要に応じて、随時内部監査を行い、社長に報告すること。
- 六 社長に対し、輸送の安全の確保に関し、必要な改善に関する意見を述べる等必要な改善の措置を講じること。
- 七 運行管理が適切に行われるよう、運行管理者を統括管理すること。
- 八 輸送の安全を確保するため、社員に対して必要な教育又は研修を行うこと。
- 九 その他の輸送の安全の確保に関する統括管理を行うこと。

(輸送の安全に関する情報の共有及び伝達)

第11条 経営トップと現場や運行管理者と運転者等との双方向の意思疎通を十分に行うことにより、輸送の安全に関する情報が適時適切に社内において伝達され、共有されるように努める。また、安全性を損なうような事態を発見した場合には、看過したり、隠蔽したりせず、直ちに関係者に伝え、適切な対処策を講じる。

(交通事故防止対策委員会)

第 12 条 社長は、安全統括管理者、役員、営業本部部長及び、(次) 課長、営業所長
工場長により構成された交通事故防止対策委員会を設置する。

2 交通事故防止対策委員会の運営は、定例 (毎月 1 回) 及び臨時に開催すること
とし、運輸安全マネジメントの推進を図る。

3 交通事故防止対策委員会は、事故原因の解明を行い、事故防止の計画を策定し、
全社員に周知徹底を図る。

4 交通事故防止対策委員会は、指導内容の効果について、毎月一度、事故統計の
結果を確認して評価を行う。評価の結果、事故件数の削減が見られない場合、
又は、削減が少ない場合は、更なる指導方法の検討を行い、目標の達成に向け努
力する。

5 営業所には、営業所交通事故防止対策委員会を設置し、本社交通事故防止対策
委員会の統括のもと、その営業所において必要とする交通事故防止対策を策定し、
これの推進を図る。

(事故、災害等に関する報告連絡体制)

第 13 条 事故、災害等が発生した場合における当該事故、災害等に関する報告連絡体
制は別に定める。

2 事故、災害等に関する報告が、安全統括管理者、経営トップ又は社内の必要
な部署等に速やかに伝達されるように努める。

3 安全統括管理者は、社内において報告連絡体制の周知を図るとともに、第一
項の報告連絡体制が十分に機能し、事故、災害等が発生した後の対応が円滑に
進むよう必要な指示等を行う。

4 自動車事故報告規則 (昭和二十六年運輸省令第百四号) に定める事故、災害
等があった場合は、自動車事故報告規則の規定に基づき、国土交通大臣へ必要
な報告又は届出を行う。

(輸送の安全に関する教育及び研修)

第 14 条 第 5 条の輸送の安全に関する目標を達成するため、必要となる人材育成のための教育及び研修に関する具体的な計画を策定し、着実に実施する。

(輸送の安全に関する内部監査)

第 15 条 安全統括管理者は、自ら又は安全統括管理者が指名する者を実施責任者と定め、安全マネジメントの実施状況等を点検するため、1年に1回以上、適切な時期を定めて輸送の安全に関する内部監査を実施する。

また、重大な事故、災害等が発生した場合又は同種の事故、災害等が繰り返し発生した場合その他特に必要と認められる場合には、緊急に輸送の安全に関する内部監査を実施する。

2 内部監査は、運輸安全マネジメントに係る内部監査手順書に基づき実施する。

3 安全統括管理者は、前項の内部監査が終了し、その結果、改善すべき事項が認められた場合は、速やかに、社長に報告し、輸送の安全確保のために必要な方策を検討し、必要に応じ、当面必要となる緊急の是正措置又は予防措置を講じる。

(輸送の安全に関する業務の改善)

第 16 条 社長は、安全統括管理者から事故、災害等に関する報告又は内部監査の結果や改善すべき事項の報告があった場合、若しくは輸送の安全確保のために必要と認める場合には、輸送の安全確保のために必要な改善に関する方策を検討し、是正措置又は予防措置を講じる。

2 悪質な法令違反等により重大事故を起こした場合は、安全対策全般又は必要な事項において現在よりも更に高度の安全確保のための措置を講じる。

(情報の公開)

第 17 条 輸送の安全に関する基本的な方針、輸送の安全に関する目標及び当該目標の達成状況、自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故に関する統計については、毎年度、外部に対し公表する。

2 運輸規則第 47 条の 7 に基づき、輸送の安全確保のために講じた改善状況について国土交通省に報告した場合には、速やかに外部に対し公表する。

3 公表方法については、ホームページに掲示するものとする。

(輸送の安全に関する記録の管理等)

第18条 本規程は、業務の実態に応じ、定期的に及び適時適切に見直しを行う。

2 輸送の安全に関する事業運営上の方針の作成に当たっての会議の議事録、報告連絡体制、事故、災害等の報告、安全統括管理者の指示、内部監査の結果、経営トップに報告した是正措置又は予防措置等を記録し、これを適切に保存する。

3 前条に掲げる情報の公開結果はこれを適切に保存する。

(実施期日)

第19条 本規程は 平成18年10月1日から実施する。

平成19年 6月1日 改定